

出エジプト記2章1—10節

● エクアドルの先住民に伝わる「ハチドリのひとつく」という話があります。大火に燃える森で動物たちが、われ先にと逃げていく中でクリキンディというハチドリが口ばしで水のひとつくを一滴ずつ運んでは火の上に落としている。それを見て他の動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」と笑いますが、クリキンディは「私にできることをしているだけ」と答えるのです。このハチドリのように絶望的な状況の中で「今自分にできること」を行っていくこと、それがまさに信仰者の歩みであり、神の力がそこに豊かに示される事を聖書は物語っているのです。

● 今日の聖書は、モーセの誕生のお話です。当時、イスラエルの民はエジプトで奴隷状態にありで、生まれた男子は皆、川に流されるという暗黒の時代でした。しかしその中でモーセの両親はその子を三か月の間、隠しました。しかし、3ヶ月が経ち、いよいよ隠し切れなくなった時、モーセの両親は何とか我が子の命を救いたいと願い、パピルスで編み丁寧に防水加工された「籠」に赤ちゃんを入れるのです。この「籠」は厳しい状況下で成し得た最善の信仰的行為の表れでした。そして、神様はその籠と共にあり、守り、祝福し、その籠を通してイスラエルの救いという神ご自身の壮大なご計画を実現させられたのです。また、この「籠」(テバー)という言葉はあのノアの「方舟」にも用いられている言葉です。常に、神は弱く虐げられた信仰者たちに働きかけてこの世を救おうとしておられることを聖書は告げているのです。

● 救い主イエス・キリストの誕生の話を思い起こします。イエス様の誕生の時、人々は皇帝の勅令による人口調査の混乱の中にあって、貧しいヨセフとマリアには泊まる場所もなく、家畜小屋の飼葉桶に幼な子イエスは寝かせられました。かううじて差し出された宿屋と飼葉桶、そして藁の布団がイエス様の命を救ったのです。あの飼葉桶にも神の祝福と尊いご計画が込められていたのです。

● 聖書は常に救われた命がまた人々を救う働きへと用いられることも証しています。いつの世にも無力さを痛感させられるような厳しい現実がありますが、イエス・キリストの十字架によって救われた私たちは、その感謝を胸に身近な愛の業に日々励んでいきたい。そして神様の救いと愛に満ちた神の国がこの世に実現してくことを共に信じて参りたいと願います。